

国際審判員 塚田 秀樹 (京都ボート協会)

ARF 主催 2014 ASIAN ROWING INDOOR ROWING CHAMPIONSHIPS が 2014 年 3 月 6 日 (木) ～7 日 (金)、カタール国ドーハ市で開催されました。当地は 2006 年アジア大会を開催した都市でもあります。経済発展著しい中東の国々の中でも積極的にスポーツ大会を開催しているようです。今回の渡航に利用しましたカタール航空 3 月号機内誌にこのインドアローイング大会開催の記事が掲載されていました。来年 2015 年には男子ハンドボールの世界大会が開催されるとのことでした。

今回の旅程は 3 月 4 日 (火) 夜、成田空港から直行便でカタール・ドーハ空港へ、選手団 6 名とともに向かいました。5 日早朝に空港到着後 OC (組織委員会) の迎えがあり、シンガポールのニコラス・イー氏とともに 20 分程の所にあるホテルに向かいました。チェックインの後少し休んでから町を少し散策しました。その後 10 時、車で 30 分ほどのところにある会場に向かいました。会場は大学の施設です。今回参加瀬選手団・役員一同は参加国すべて 1 つのホテルでした。国際審判の参加は 4 名です。内 2 人は昨年のアジアジュニア選手権でも一緒でした。今回の旅程は宿舎での宿泊が 2 泊と強硬日程でした。

なお今回のレース日程は 3 月 6 日 (木) 7 日 (金) です。
これはイスラム教の国では金曜日が休みだからと思われます。

2014 年 3 月 5 日 (水)

10 時に審判長 SUI 氏とともに OC により車で会場へ移動。
会場周辺は文教地区として開発された地域ようです、複数の大学がありました。地域内への車の進入にも ID チェックがあります。

体育館内の会場で、審判会議が行われ、審判長の SIU 氏から、役割分担と注意点が伝えられました。打ち合わせの主な役割とポイントは、

- ① チーフマーシャル→ID チェックです、コントロールコミッションの役割です。
- ② On the field→fauls start のチェックです。もし、不正スタートがあればマシンがコンピューターを通して当該クルーを知らせます。その際はレースを止め、イエローコーンをおきます。また、マシンが反応しなくとも (反応する前でも)、ブザーの前に (引く) アクションを起こした場合などは審判員が止めます。
- ③ 記録→基本はコンピューターが記録します。しかし、コンピューターがダウンしたときには 2 台に 1 人の割合で後方に待機している計時員とともに 2000m 時点でのタイムを取ります。
※ちなみに今回はマシン・コンピューター共にトラブルはありませんでした。

- ④ 選手計量→今大会では軽量級もあります、日本選手 4 名 (男女 2 名ずつ、内各 1 名は軽量級です)。
計量時間は 2 時間半前から 1 時間班前までで行うとのことでした。
計量でオーバーした場合は Open で参加してよい、とのことでした。
体重制限は男子 75kg、女子 61.5kg と計量時間とともに普段のレースとは少し違います。
※部署配置名としては、Chief Umpire、Chief Marshal、Race Umpire、選手計量 (以上が審判) Race Controller (審判以外の役員) として、Timekeepers、marshals です。

開催国以外の参加役員

President of Jury	SIU Kin Wah	香港
Jury member	TSUKADA Hideki	日本
	MAO Ying-Hai	台湾
	POCHANASOMBURANA Praparnpongs	タイ

この他に香港から Technical officer として FISA 審判員の Ng See Hung 氏
韓国から ARF Secretary General の ken Lee 氏、
コーチカンファレンス講師として Chair of ARF の Chris Perry 氏、



同じくコーチカンファレンス講師としてドイツより Axel Muller Asensio 氏
QSRF (カタール協会) Guest としてシンガポールより Nicholas Ee 氏が参加されました。
ARF ホームページではこの他にミャンマーの審判員 2 名が記載されていましたが、今回来られませんで
した。

レース用のエルゴメーターは 20 台です。コンセプトの MP 4 というタイプですべてのマシンをケーブルで
つなぎ、コンピューターで計測します。

参加国は以下の 13 カ国 (内 1 カ国は棄権) です。

- 1) Iraq
- 2) Japan
- 3) Kazakhstan
- 4) Korea
- 5) Kuwait
- 6) Lebanon
- 7) Pakistan
- 8) Qatar
- 9) Thailand
- 10) Chinese Taipei
- 11) United Arab Emirates
- 12) Uzbekistan
- 13) Indonesia (棄権です。)



この日の昼食は会場の大学のカフェテラスで取りました。
午後2時よりエルゴメーターが各参加者へ練習用として開放されました。



練習風景です。(上右)

会場公式解放と同時に宿泊ホテルでは午後1時より ARF 主催 コーチカンファレンスが行われています。
参加者はインドアローイング大会参加国コーチを含め 27 名。バングラデッシュ、香港、インド、フィリピン、スリランカの 4 カ国 (計 10 名のコーチ) はコーチカンファレンスのみの参加です。(上左)

午後4時過ぎに会場を後にホテルへ戻りました。

5時より Team managers meeting & Draw がありました。

翌日の6レース分のレーン(マシン)抽選が行われました。



アクセジテーションセンター(ホテル内)でIDカードの作成をしました。
トートバックとポロシャツの記念品をいただきました。

2014 年 3 月 6 日 (木)



公式日程 2 日目です。

8 時にホテル出発、8 時 30 分会場到着です。

私は本日 Chief Marshal を担当、ID チェックです。現地役員とともにレース前に ID カードとスタートリストを照合し、ベンチに座って待機させます。



10 時から開会式がありました。(左)

その後 10 時 30 分から 30 分間隔で午後 1 時まで、レースと直後に各レースの表彰式がありました。

第 2 レース女子 open pair 2000 m 表彰式 JAPAN、金メダルです。(下)



この日の日本は Mixed Open Four Sprint 500m でも銅メダルを取りました。この種目は 4 名は同時に漕ぎ、その合計タイムで競います。

最終レース (午後 1 時) の後、1 時 30 分より会場体育館 3 階で Team managers meeting がありました。本日の第一レースで電池切れのためスクリーンが一瞬止まったトラブルがあり、その説明がされました。記録には影響がありませんでした。

翌日の最終レース ARF President' Friendship Challenge-Team relay の抽選がありました、これは参加選手を全員混ぜこぜにして、4 名ずつを抽選して選びます。レースではその 4 名が 1 台のマシンを 500 m ずつ漕ぐレースです。

この後ホテルに戻り昼食です。
 右はレース時の大画面モニターです。
 昼食後（夕方）ホテルに近いスーク（市場）へ出かけました。（下）



また、この日の夜は **Welcome Dinner** がありました。会場はバスで 10 分ほど海沿いを空港方面に行ったところのホテルでありました。各参加国代表と海外から参加の役員へ記念品のぞうていがありました。右は岡本悟団長です。



2014 年 3 月 7 日（金）

レース 2 日目です。レースは午後 1 時から 30 分間隔でレース予定されています。すべて 2000m で最終レース以外は個人戦です。昼食は会場でホテルのランチボックスを食べました。

この日の私の役割は選手計量です、左下が計量所です。会場体育館の反対側で行います、パネルの内側が本計量、外側は予備計量です。本日のメダリスト、都出身の宮田選手銅メダルです。（右下）



最終レースは ARF President' Friendship Challenge—Team relay です、男女国籍問わずに抽選で結成された 4 人 1 組のチームです。漕ぐ順番も選手達が決めます。漕ぐ選手とその次に漕ぐ選手以外の 2 名は左右それぞれのつま先を押さえるロープを引っ張り続けます。迅速に交代するため器具で固定しません。



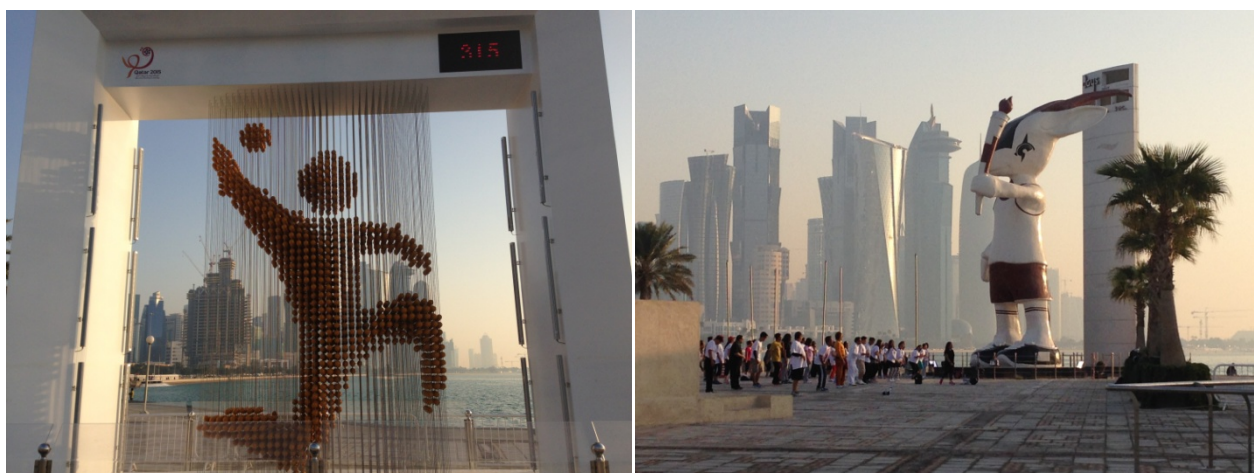
応援にも力が入ります。選手との近さが水上ローイングと違うところです。コーチも漕いでいるくらいエネルギーを使っているようです。



全レース無事終了しました。ホテルに戻り夕食を取った後短時間ショッピングへ出かけました。Villagio という屋内ショッピングセンターへ OC に連れて行ってもらいました、タイの POCHANASOMBURANA Praparnpongs 氏も一緒にです。



最終日 7 日の夜、ショッピングを終えた後ドーハ空港へ送っていただき深夜 1 時 25 分の航空便で成田へ出発しました。8 日夕刻無事到着し各自帰途に着きました。



上の 2 つはドーハの海岸沿いを朝ジョギングした際に取りました。左は来年開催の男子ハンドボール世界選手権のアピール。右は休日の朝だからでしょうか、一般市民が大勢集まりエクササイズをしていました。短い滞在でしたが同国の豊さを感じました。資源は天然ガスをはじめ豊富でしょうが、その恩恵に国全体が潤っている様子を実感しました。同じアジアでも日本からは遠く離れているため実感がわかりませんが、中東地域でのボート競技が発展し、アジア全体のレベルアップにつながるようお互いの交流の機会が増えることを望みます。

最後にこの大会参加の機会を与えていただきました日本ボート協会の関係各位へ感謝申し上げます、昨年初参加しましたアジアジュニアと同様に、本の選手役員の方々と同行程で一緒出来ましたこと大変勉強になりました。この経験を糧に日本ボート界発展のため少しでもお役にたてるよう努めます。今後ともよろしく願いいたします。